

第228話 小塩御福田田植踊 その3 中山町歴史散策



華やかな色彩の衣裳(令和6年撮影)

小塩に残る田植踊の由来については明らかではありませんが、天保年間の唄本が残っていることから、江戸時代中期には行われていたのではないかとわれています。山形県の各地に残っている田植踊には、弥十郎とテデ系の2系統があるといわれていますが、小塩御福田田植踊はテデ系です。

現在は前列にテデ衆(小塩の呼び方、以下同じ)3人とその間に中太鼓が2人、後列にソトメ(小塩の呼び方、以下同じ)5人の計10人。それにゲザ(小塩の呼び方、囃子方のこと)、しめ太鼓1人、横笛1人、歌い手2人の構成となっています。

服装は、テデ衆は黒地の法被に背に宝珠、雲龍、金銀の波模様、下に水色の上着、黄色の手甲、黒の股引、脚絆、黒足袋をはき、黄色の帯をしめます。それに白鉢巻、右手に三尺ほどのテデ棒を持ちます。テデ棒は黒塗りで、先に馬毛と錫杖の輪がついています。中太鼓は赤地の法被、背に雷電模様、袖に紋付(もとは赤い産着を着た)を羽織り、下に黒地に袖模様、裾模様の上衣に、白股引、白脚絆、白足袋、白手甲、赤地に紋と2つの太い線のある前掛けをしめ、頭に白鉢巻と白菱形頭巾を被ります。左手には三巴模様の団扇太鼓、右手に撥を持ちそれを打ち鳴らしながら踊ります。

語句の説明

弥十郎系…「弥十郎」という道化役が最初に踊り、前口上として演目の説明を行う。また、弥十郎には「鈴振」という囃子役が後に続く。

※中山町史 中巻

第10章第4節

「民俗芸能と娯楽」から

私たち地域おこし協力隊です！ No.94

おかげさまで。私のなかやま暮らしで好きな場所は『弁財天様』です。ある日いつものようにお参りした時、音楽が聞こえてきて農作業している方がクマよけに流しているのかと思いました。気になって音のする方へ行ったら町民の方がドラムの練習をされていました。私は、この方の行動力に驚きました。誰にも迷惑かけたくないしお金もかけたくないとのこと。一生懸命練習している姿をみて好きなことに熱くなれるっていいなあ～と思いました。私も米を使った補食の開発は好きでやっているから頑張れるんだとあらためて感じました。

『中山町地域おこし協力隊』に新しい隊員が2名着任しました。私とは分野が違うのでなかなかお会いできませんが、仲間が増えて嬉しいです。この『地域おこし協力隊』コラムも一人で担当してきましたが、これからは毎月担当が変わります。1年間ずっと私のコーナーのようになっていたおかげで「いつも楽しみに読んでいます」と声をかけてくださる方が多く、私のことを知ってもらえてラッキーだったと思います。ありがとうございます。残り任期はあと100日かな…。

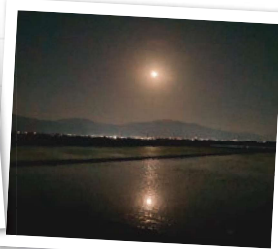


阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



弁財天から見た
田植え前の風景



羽前金沢駅付近から
見た5月31日の満月

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271(総合政策課)